

オホクハシヨウ 大桑庄 石川郡に屬し、和名鈔大桑郷の地である。元應元年日吉社に注進に「加賀國大桑永富兩莊、三社御供料所淨土寺御門跡領。但近年不被付門跡。仍神用關如畢。」とある。後世には富樫庄に大桑村が存する。

オホクハシヨウ 大桑城 石川郡富樫庄大桑に在つた。龜尾記に、この村の城山といふ所に古墟のあることを記してある。

オホクハミツユキ 大桑光行 白山本宮の神主職。尊卑分脈には林六郎光明の弟大桑三郎利光の男で、佐貫小三郎光行と見える。白山宮莊嚴講中記録に、嘉祿三年四月廿七日大桑證次郎光行被補白山神主職。是雖非重代、依米永大夫氏澄之讓故歟。また『天福二年八月十八日大桑殿當宮神主職任補到來。』とあつて、上道氏澄の後を襲いだものである。光行の次代は延應元年上道氏盛が之に任ぜられた。

オホクハヤ 大桑屋 金澤川上新町に於ける酒造家であつた。變異記にも「享保七年二月十九日晝八半時川川上新町大桑屋安兵衛といふ酒屋とあやめ坂との間、足輕町續きの町家二軒焼失。」とあり、その後も數代連綿して醸酒を業としてゐた。

オホクハヤカタ 大桑館 石川郡大桑領に大桑三郎利光が居たといふ館跡がある。

オホクホ 大窪 河北郡井上庄に屬する部落。

オホクホ 大久保 鳳至郡別所谷の内の小字。

オホクホ 大久保 鳳至郡浦上の内の小字。

内の小字。

オホクホイヘナガ 大窪家長 越登賀三州志に、大窪源左衛門家長はその先山城國磯城から出た。長享の比家長石川郡安吉村に住して安吉氏を稱し、手取川邊四萬石を分領して、河原組一揆の隊將であつた。故に今も相河村・石立村邊を四萬石浦と遺號する。天文二十年家長薨逝して、淨土寺了海と稱した。家長の長子了明も出家し、二子は大窪忠左衛門安治であり、家長の妻は富樫政親の家老山川參河守の妹である。安吉城は天文十九年家忠の姉智羅田大炊允に譲り、河原組の將たらしめた。又安吉村の内にわん田のあるは、家長の女おわんの屋敷跡であるといふ。

オホクホコウ 大窪行 字は天民、號は詩佛。常陸の人。山本北山に學んだ。詩佛詩を以て海内に杖を曳いたが、その初めて金澤に來たのは文政四年九月で、中村碧山の家に寓し、翌年春を以て江戸に向かひ、七年再び來つて野村圓平の家に身を寄せ、遂に去つて秋田藩に裾を釋いた。北遊詩草は圓平が詩佛の作を上木したものであり、明倫堂文學林瑤・大夫横山致算最も深く詩佛と親交があつた。

オホクボスケザエモン 大窪助左衛門 初めて前田利常に仕へて百五十石を領した。その子藤石衛門は射手料共二百石を受け、元祿元年歿し、後裔相繼いで藩に仕へた。

オホクボタロベエ 大窪太郎兵衛 祿百七十石で堂形奉行を勤めてゐたが、私曲の罪によつて延寶三年劊首せられ、その子二人は自殺を命ぜられた。黨與の奸商大橋屋八郎右衛門・松本屋藤石衛門・銀先屋半兵衛の三人も亦殺害せられた。

オホクボナホヒロ 大久保直熙 初薩安治、通稱半兵衛。知行四百石。貞享三年高岡町奉行、元祿七年御馬廻使番、寶永七年小松番頭に任じ、享保十一年十一月七十九歳で歿した。孫吉之助承祖祿三の一中、享保十五年早世して家断絶した。

オホクボナホヒロ 大久保直熙 初薩安治、通稱半兵衛。知行四百石。貞享三年高岡町奉行、元祿七年御馬廻使番、寶永七年小松番頭に任じ、享保十一年十一月七十九歳で歿した。孫吉之助承祖祿三の一中、享保十五年早世して家断絶した。

オホクボヤスハル 大窪安治 通稱忠左衛門又は五郎左衛門。一向一揆の將安吉源左衛門家長の次男で、後に前田利家に仕へ、子孫藩に世襲した。系譜に本國參河とあるものは、曾て賊魁であつたことを蔽うたものであらう。その後裔は氏を大久保と改め、代々藩に仕へた。

オホクマ 大窪 マン 河北郡笠野郷に屬する部落。

オホグミ 大組 大組足輕の居住地をいふ。三組あつて、一組は大眾免の大組、二組は石坂の大組で、その石坂の大組を四丁目の組、六丁目の組と稱し、或は上の組・下の組とも稱した。

オホグミアシガル 大組足輕 延寶二年四月九日初めて阿部甚右衛門・村上小七郎・北川庄右衛門の三人に各一組與力五人、足輕七十人内小頭十人、手替十人の内五人は頭に下され、小頭は切米三十五俵、平組は二十五俵とし、一組合千八百五十俵と定めて、専ら鐵炮を修練せしめられた。同三年二月役料百石宛を賜うたが、北川は小隊であるから特に二百石を與へ、五年三月阿部・村上の料知も百石として、爾後の制となつた。

オホクラガマ 大藏 明治四年江沼郡山代なる九谷本郷を廢した時、大藏樂は塚谷磯花洪水之を譲り受封、十二年更に九谷郡器

會社の經營する所となつた。この期間を世に大藏黨と名づける。

オホクラシヨウサイ 大藏松齋 又仰道とも號した。通稱延年。江沼郡山代の人。家は鑛泉宿を業としたが、學を好み、詩文に長じ、和歌俳句書畫の類に至るまで可ならざるはなかつた。松齋性恬澹にして、名利の末に拘らず、人に接して親切、且つ抱容の瑣があつた。明治初年の頃寺子屋を開き、名づけて以文館と言ひ、孜々として取へて倦まず。時人其の學徳を慕ひ教を請ふものが多かつた。明治卅年十二月二十一日歿、享年七十二。

オホクラジンジャ 大藏神社 鳳至郡池田に鎮座する。式内等舊社記に「大藏神社。阿岸郷池田村鎮座。郷内十七箇村之惣社。祭神菊理姫命。」とある。

オホクラダケ 大倉岳 能美郡尾小屋の東南に在る。六五一米。山體第三紀層。
オホクラヤマ 大倉山 石川郡倉谷の東方にあつて、越中西嶺波郡に跨る。高さ一〇〇五米。山體石英粗面岩。
オホクリ 大磯 鳳至郡劍地の地先海中にある岩礁。

オホケンダヒラ 大けん平 珠洲郡二子の部落から西方に在る山。
オホゴウヤマ 大郷山 鳳至郡竹良部落の西方に在る山。高さ六三米。山體第三紀層。

オホゴシヨウグミ 大小將組 古へは御小將組といつたが、何時の比から御大小將組といふことになつたか明らかでない。たゞ組頭のみはいつまでも御小將頭といつてゐた。初めは總員數を惣組頭が打込み支配したが、天和二年から六組に分けることとなつた。知行